

農業試験場水稻生育診断情報 第1号

平成29年6月30日

栃木県農業試験場

《早植コシヒカリ》

- ・ 出穂期は平年より4～5日程度早い見込み。
- ・ 本年の稲作期間中の気象は平成21年（2009年）および平成27年（2015年）と類似している。

1. 本年の早植コシヒカリの出穂期について

農業試験場の生育診断圃場におけるコシヒカリ分施肥区は、6月24日に幼穂分化を確認しました。

これにより本年の出穂期は7月26日と推定されます。

（平年値：移植5月6日、出穂8月2日）

表1 水稻品種の幼穂分化期（6月30日現在、農業試験場）

	移植日	なすひかり	コシヒカリ	とちぎの星
本年(H29)	5月2日	6月20日	6月24日	6月27日
昨年(H28)	5月6日	6月23日	6月26日	6月30日
平年	5月6日	6月24日	6月29日	7月1日

平均気温（宇都宮气象台）から算出した生育ステージ（DVS 値）による6月29日現在の早植コシヒカリ（5月4日移植）の本年の出穂期予測は、今後の気温が平年並みで経過した場合、宇都宮市で7月29日頃（平年より5日早い 平年出穂日：8月3日）と推定されます（図1）。

ただし、本年の平均気温は概ね平年より高温で推移していますが、朝晩冷え込んだ日があります（図2）。DVSの計算は平均気温を基に算出されることから、朝晩の低温による生育停滞を反映できない可能性があります。

り、本年のDVSによる出穂予測はやや早めに予測される事が考えられます。これを考慮すると、本年の早植コシヒカリの出穂期は最大でも平年より5日程度早いと予想されます。

2. 稲作期間中における過去の気象の類似年について

平均気温で見た移植以降の気象経過（5月～6月）は、平成21年（2009年）・平成27年（2015年）と良く類似しています。

平成27年の5月～6月の気象は高温・多照で経過し、降水量は5月は少雨、6月は平年並みでした。

平成27年は、生育初期から茎数が多く、乾物重が重い充実した稲体が確保された年でした。7月7日まで葉色は淡い傾向であり、葉令が多く（生育は進み）、茎数はやや少なく経過しました。このため、生育診断値（葉色×茎数）は平年比85%と小さくなりましたが、数値的には概ね適正範囲内と考え、穂肥は出穂前15日を基本とした年でした。

本年も、5月の気象は高温で経過し、生育が早く進んでいます。この進みを考慮してもコシヒカリは分施肥区、同全量基肥区ともに乾物重が重く、充実した稲体となっています（表2）。ただし、平成27年よりも葉色が淡く推移しているため、籾数が不足することによる低収のおそれがあります。このため、生育診断値に基づき適期に穂肥を施用することが品質・収量向上の観点からも重要です。

表2 葉面積及び乾物重の推移（農業試験場調べ）

	葉面積(m ² /m ²)							
	5/25		6/8		6/22		7/6	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年		平年
コシヒカリ分施(N:3kg/10a)	0.22	0.11	1.87	0.65	3.69	2.19		3.57
コシヒカリ全量基肥(N:5kg/10a)	0.24	0.09	1.37	0.5	3.13	1.83		3.20

	乾物重(g/m ²)							
	5/25		6/8		6/22		7/6	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年		平年
コシヒカリ分施(N:3kg/10a)	20.6	8.5	183	53.3	442	196		381
コシヒカリ全量基肥(N:5kg/10a)	20.8	7.8	135	43.5	377	167		350

移植日：本年5月2日、平年5月6日

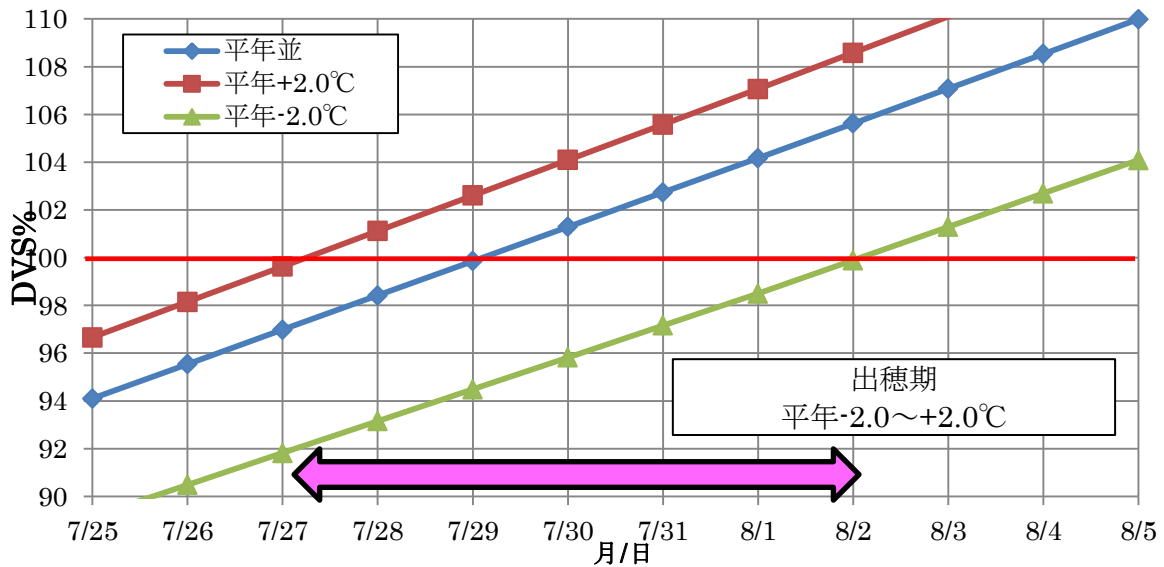


図1 早植コシヒカリのDVSによる出穂期予想（6月29日現在 5月4日移植）

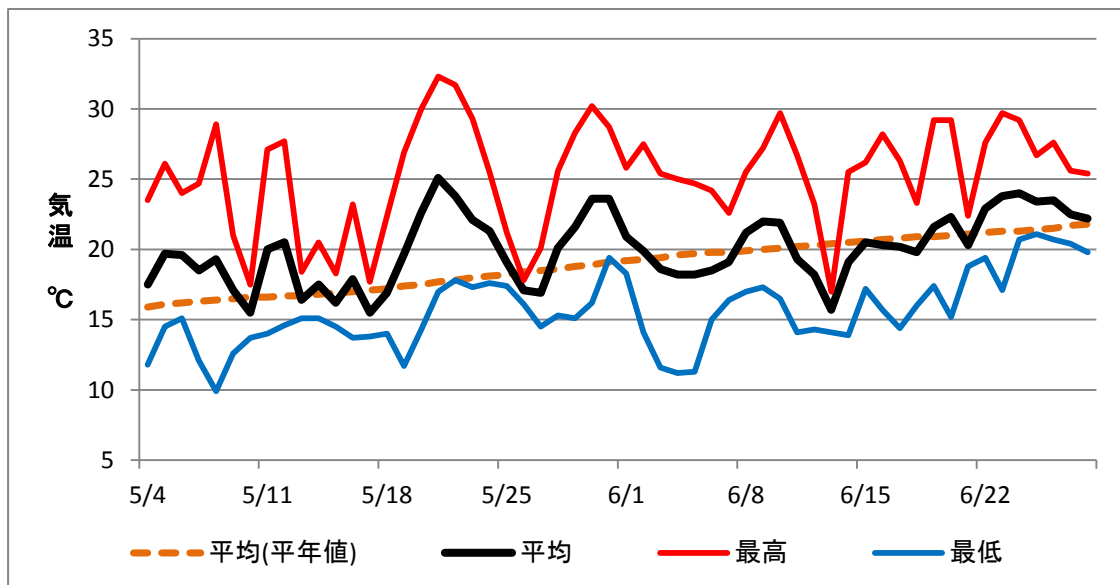


図2 気温の推移（宇都宮気象台 調べ）

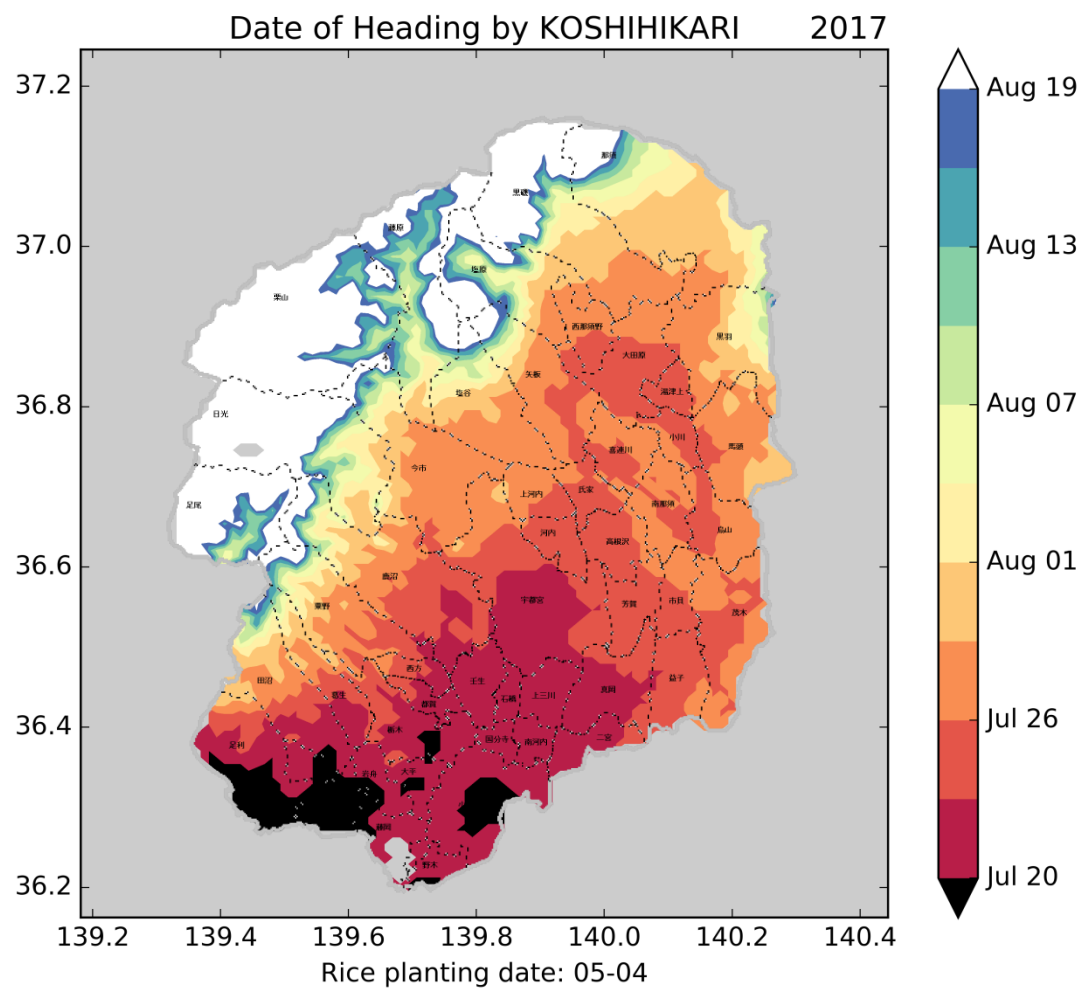


図3 栃木県内の早植コシヒカリ出穂期予測 移植日：5月4日